

<基本理念>

真心

誠実 何事にも真摯に向き合い、責任をもって行動する

柔軟 一つの考えにこだわらず、今何が必要かを考え対応する

共同 互いに認め合い、寄り添いながら、響合って成長し続ける

<教育・保育理念>

和を以て貴しとなす一。

太子保育園は、「真心」を大切に、「真心」を生み育てます。

一人ひとりに応じた経験が積み重ねられていくよう援助します。

親切丁寧な関わりを心掛け、寄り添い、受け止め、対話をし

地域に愛されるこども園として、今出来ることを考え実践していきます。

<教育・保育目標>

○友達と仲良くできる子 ○正直で明るい子 ○ありがとうと言える子



<令和6年度の重点目標と具体的な方策>

☆教育・保育活動の充実……心豊かな乳幼児を育成する保育の展開をします

①異年齢児交流・職員間の質の向上

前年度、異年齢児交流は朝の活動を通し園の目標を達成出来ました。今年度はさらなる学び合いを深められるよう展開させ、交流するクラスの職員間で活動のねらいに沿って取り組んでいきたいと思ひます。子どもたちの経験の幅を広げ、職員間の質の向上や繋がりをより強めていきます。

②「お絵描き」で子どもの心身の発達を促す

お絵描き(描画)には子どもが成長していくうえで大切な指先や脳の発達を促したり情緒を安定させる効果もあります。描くことが楽しいと思えるよう、各クラスで取り組みながら描画について考え、より知識や理解を深め、年齢別の特徴や子どもの様子をまとめ、掲示すると共に、実際に子ども達が描いた絵を見てもらう機会を作っていきます。

☆保護者への情報発信…保護者との意志疎通を図り、情報発信の仕方を見直し工夫します

③情報発信の方法・IT化

教育施設や各ご家庭でもデジタル化が普及している状況を踏まえ本園でも事務効率化の観点から、配布しているおたより等を印刷して配布せずにスマートフォンなどから閲覧できるようにペーパーレス化に取り組んでいきたいと思ひます。

また、3月より、電話での欠席連絡からQRコードを読み込み送信できるようになっております。今後は、申込書やアンケート他、デジタル化できるものはないか検討し、詳細決まり次第随時発信していきます。

☆安全計画の実施…安全計画に則った指導を保護者にも発信し、共通理解を深めます

④安全計画の共通理解と実施

子ども一人ひとりの発達や年齢に応じて楽しく遊べるよう環境設定をするために、安全教育の知識が身に付くよう指導していきます。また家庭でも安全教育が出来るよう、教育内容や様子を発信していきます。昨年同様、ヒヤリハットを活用し危険箇所や場面を職員で共有し共通理解を深めていこうと思ひます。

☆食育の推進…食を営む力を培う食育

⑤サペレメゾット・クッキング

サペレメゾットとは「見る」「かぐ」「触る」「聴く」「味わう」の五感を使って食に触れていく教育法です。今までも取り組んできた野菜の下処理や食材の廃棄を使っての感触遊び。0～5歳までの子どもが出来るクッキング体験を通してさらに食への興味・関心を広げる経験をしていこうと思ひます。

令和5年度の園目標の振り返り

☆教育・保育活動の充実……心豊かな乳幼児を育成する保育の展開をします

①異年齢児交流（朝活・ペア活）

異年齢児交流での活動内容をグラフに表し、毎月評価する事で活動の工夫に繋がり翌月の活動計画に生かすことが出来ました。交流を続けるうちに自然と積極的な関わりが生まれ、年下の子を思いやれる心、年上の子に対する憧れや期待が持てるようになりました。また、職員も他学年との繋がりを持った活動を学び、広げるきっかけにもなりました。

②子どもが主体となる保育

子どもの自主性や主体性を育てていくために、年齢や発達段階に応じた多種多様な玩具や教材、保育者によるしかけを準備するなど園全体として見つめ直し、工夫してきました。2期にわたって職員間で各保育室の見学も行い、工夫を学び合いました。子どもは遊びを通して物事の道理を学び、自分でやりたいことを選び、時に仲間と一緒に、あるいは一人でじっくりと思い思いに遊べるようになりました。

③「お絵描き」で子どもの心身の発達を促す

年齢別のお絵描きの特徴を学び合い、子どもの発達と描画について分かりやすく表にまとめ、発達段階によって成長していくことを踏まえながら次年度は実践的に向けねらいを再構築していきたいと思えます。

☆保護者への情報発信…保護者との意志疎通を図り、情報発信の仕方を見直し工夫します

④活動の内容やねらいの明確化

ホワイトボード記述強化習慣を設け、他の職員の記述の仕方を見て参考にし、意識して記載してきました。年度の最後には園目標であった保護者への情報発信について意見や感想を頂き、今後も日々の保育の様子をホワイトボードを活用して情報を伝えることで家庭と連携をとっていきたいと思えます。

☆安全計画の実施…安全計画に則った指導を保護者にも発信し、共通理解を深めます

⑤ヒヤリハットの活用と安全計画の共通理解

ヒヤリハットを年齢ごとに定期的に集計し見直すことで危険予測の向上に繋がり、安全に遊べる環境を目指してきました。安全計画では園だよりからも情報を発信し家庭との連携に努めたり、保育の中で子どもたちに伝える事で少しずつ意識付けに繋がっていると感じます。今後も安全な環境の中でのびのびと遊べるよう園内環境を整えていきたいと思えます。